

令和5年度全国剣道指導者研修会（西日本ブロック・広島県）



簡易試合の様子

令和5年度全国剣道指導者研修会・西日本ブロック（主催＝日本武道館、全日本剣道連盟、全日本学校剣道連盟、後援＝スポーツ庁、広島県教育委員会、広島県剣道連盟、主管＝広島県学校剣道連盟）は、11月17日～19日の日程で広島県福山市のエフピコアリーナふくやま（福山市総合体育館）で、講師8名、参加者60名の出席を得て実施された。

本研修会は、令和3年度から全面实施された中学校学習指導要領を踏まえ、全国の中学校に剣道が導入され、安全で効果的な指導展開がされるよう全国東西の2ブロックにおいて開催されるもので、10月に開催された東日本ブロック（三重県・桑名市）に続いての開催である。

■1日目（11月17日）

開講式では、さわとひでのり沢登英徳日本武道館振興課長補佐の挨拶に続いて、なかりふみのり百鬼史訓全日本剣道連盟参与が挨拶し、「生徒にとって一番良い指導法や個性を伸ばす方法を剣道に携わる人間は考え、指導力を向上する姿勢が必要です。参加者、講師にとって実のある研修会にしたいと思っています」と述べた。

開講式後、しばたかずひろ柴田一浩講師が「中学校保健体育における剣道学習の考え方」の講義を行い、「中学校授業の現状」、「学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた剣道学習の進め方」、「剣道学習における主体的・対話的で深い学びの展開例」の流れに沿って、スライドを用いながら解説した。

かるこめみつよ軽米満世講師の「新型コロナウイルス感染症拡大

防止に留意した中学校における剣道授業」の講義では、授業を行う基本的な考え方として、文部科学省の衛生管理マニュアルと全日本剣道連盟の感染予防マニュアルに準拠して中学校の剣道授業を行うことが重要であると説き、熱中症対策や細かな感染予防、衛生管理対策の必要性を訴えた。その後は、翌日以降の研修内容を見据えたオリエンテーションの内容を交えつつ、中学校1～3年生の学校授業の具体的な流れについて説明した。

■2日目（11月18日）

軽米講師の「剣道の歴史と特性」の講義に続いて、やまがみしんいち山神真一講師と柴田講師による「剣道授業における楽しい動機付け」として、剣道の要素を組み込んだゲーム形式の指導法が展開された。剣道の打突部位を互いに触ってじゃんけんをする「剣道じゃんけん」、手拭いで目隠しした相手を大きな声で呼んで、自分の場所まで誘導する「パートナーを探せ」、竹刀で新聞紙を切って刃筋を学ぶ「新聞切り」など、様々な指導法が紹介され、参加者は時折笑顔をこぼしながらこれを実践した。



剣道じゃんけん

次に、「剣道に必要な動きづくり」の実技を軽米講師が指導し、何も持たない状態から打突の踏み込み、発声、足捌き、残心を、単独動作と二人一組の相対で練習した。

続いて、「剣道具のない授業例1」では、立礼や座礼などの「礼法」を^{かんざきひろし}実践。担当の^{かんざきひろし}神崎浩講師は、「何故礼法を学ぶのか生徒に説明しましょう。相手を尊重する、相手と気を合わせるなど、礼の意味を説明することが大切です」と解説した。その後の「木刀による^{いのうえたかし}剣道基本技稽古法」では、井上孝講師も加わり、礼、木刀の持ち方、面、小手、胴に対応した木刀の振り方、打たせ方を全員で実習した。

最後にグループ学習として、生徒がつまづきそうな部分をどのように工夫して授業を進めるのかなど、授業の課題とその解決策をグループで討議して発表を行った。発表では、「木刀の打突部位に予め目印をつける」、「動く際の掛け声を決めておく」といった意見が挙げられ、活発な意見交換がなされた。

午後の実技は、「剣道具のない授業例2」として「竹刀による^{はなざわひろお}授業例」を^{はなざわひろお}花澤博夫講師と^{かんざきひろし}神崎講師が担当。花澤講師は、授業前、授業中に竹刀を点検して事故を未然に防ぐ重要性を呼びかけた後、竹刀の握り方、素振り、空間打突の実習を行った。続いて^{かんざきひろし}神崎講師の指導の下、二人一組で面、小手、胴を打つ練習で汗を流した。

次の「音楽を活用した^{さとうよしり}授業例」を^{さとうよしり}佐藤義則講師が担当し、前のコマで^{はなざわひろお}花澤、^{かんざきひろし}神崎両講師の指導した内容を音楽に合わせて行い、^{さとうよしり}佐藤講師はその狙いを「リズムに乗って打突する楽しさを味わうこと」と説明した。実技の最後には、オリジナルのリズム剣道の発表を参加者が行った。

「剣道具のある授業例」では、井上講師による剣道具着装の後、山上講師、^{かんざきひろし}神崎講師が「基本となる技の段階的な指導—相手の動きに応じた基本動作—」を担当した。打突指導では、打突をその場で、一足一刀の間合いから、一歩攻めて踏み込んで、という3つの段階に分けて指導していくことを紹介。

軽米講師が指揮を執った「ごく簡単な試合 判定試合」では、試合者2名が互いに面、小手、胴を打ち、気・剣・体の札をそれぞれ持った3人が判定する試合を実施した。試合後は皆で集まり、良かった

点、足りなかった点を話し合い、評価を行った。評価にあたっては、前向きで、即時改善、実行できるアドバイスをすることが重要であると伝えられた。

「剣道具のある授業例」では、井上講師、柴田講師が「面抜き胴」、「面抜き胴による3本勝負」、「攻防を交代して行う30秒の簡易試合」を紹介、指導し、「剣道具の結束」では、井上講師が剣道具の片付け方について説明して実技は終了した。

2日目の最後は、佐藤講師進行の下、研究協議となり、「ICT活用」と「剣道授業にみられる課題」という2つのテーマで協議、意見交換を行った。参加者からは「ICTを使いすぎると指導の時間が不足してしまう」、「宗教上の理由で剣道をできない生徒への評価をどのように行うか」など、現場の苦労が伺える意見が発表された。



■ 3日目 (11月19日)

「安全指導」の講義では、百鬼講師が過去発生した事故のほとんどが竹刀と剣道具によって発生していることを指摘。用具の管理義務は教員側にあり、その注意を怠らないよう呼びかけた。

次に「体罰・暴言によらない指導を目指して」の講義を^{はなざわひろお}花澤講師が担当し、資料として配布した事例に沿って、ペアで教員役と生徒役に分かれてロールプレイを行った。^{はなざわひろお}花澤講師は「暴力や暴言で積み上げてきたキャリアを一瞬にして失います。怒りの感情を抑えるのが、立派な指導者です」と結んだ。

最後に百鬼講師による剣道の特性や文化性、教育をテーマにした講話と質疑応答を行った。

閉講式では、沢登課長補佐による修了証の授与の後、軽米講師が講評、主催者挨拶を百鬼講師が述べ、3日間の日程を終了した。